



## 東京・春・音楽祭 2026

SPRING FESTIVAL IN TOKYO

今年、没後 30 年という節目を迎える作曲家・武満徹。ギターを愛した武満はその生涯において、ギターのための作品を数多く遺した。本公演は、武満作品を多数初演した名手・荘村清志が選りすぐりの構成でお届けする。

1974 年発表の「フォリオス」は、武満が初めて手掛けたギター独奏曲。当時、ギターのためのオリジナル作品を切望していた若き荘村が武満の自宅に通い詰め、その熱意によって結実したというエピソードが残されている。「フォリオ」とは「二つ折りの紙」を意味し、武満によれば「そんな紙に記された小品」という意図が込められている。全 3 曲からなり、第 3 曲目には武満が深く愛した J.S.バッハ《マタイ受難曲》のコーラルが引用されている。

1987 年発表の「すべては薄明のなかで」（全 4 曲）は、ジュリアン・ブリームの委嘱により誕生した。パウル・クレーの同名絵画から着想を得ており、武満自身は「パステル風の淡い色彩による、4 つの異なる線の音楽」と表現している。

1993 年発表の「エキノクス」は、荘村清志のデビュー 25 周年を記念するリサイタルのために書き下ろした作品。ジョアン・ミロの絵画からインスピレーションを得た本作の表題は、昼と夜の長さが等しくなる「春分・秋分」を意味し、幻想的な浮遊感が漂っている。

1995 年発表の「森のなかで」は、武満の晩年を代表するギター作品。北米の地名を冠した 3 曲から構成され、武満がその土地の森で抱いた思索や追憶が音に託されている。なお、第 1 曲「ウェインスコット・ポンド」だけは、実際に訪れたことのない場所を想像で描いたという。

「フォリオス」初演の際、武満はアンコールのために「オーバー・ザ・レインボー」を編曲したが、これを機にビートルズや唱歌など古今東西の名曲を編んだ《ギターのための 12 の歌》(1977 年) が誕生した。本日はその中から珠玉の 9 曲が厳選された。

「オーバー・ザ・レインボー」は H.アーレンが作曲した、映画『オズの魔法使い』の主題歌。「早春賦」は、中田章が日本の早春の情景を描いた、親しみ深い唱歌。「失われた恋」は、映画『愛人ジュリエット』のために J.コスマが綴ったシャンソン。「ヘイ・ジュード／ミシェル／イエスタデイ」の 3 曲は、レノン&マッカートニーによるビートルズのヒットナンバー。「星の世界」は、C.C.コンヴァースの讃美歌「いつくしみ深き」の旋律が、文部省唱歌に転用されたもの。「シークレット・ラブ」は、S.フェインによって作曲されたジャズ・スタンダードの傑作。アイルランド民謡「ロンドンデリーの歌」は「ダニー・ボーイ」の名でも知られる至高の名品。